

パラスポーツで企業を変えたいなら、 応援の一步先へ。 五感を使った活動で、社員と企業の変革を促す

障がいのある人とない人が共に働く共生企業として、先進的な取り組みを行う三菱商事太陽。三菱商事とタッグを組み、パラスポーツとパラアスリートを支えるボランティア活動に汗を流すとともに、社内活動にもボランティアを受け入れることで、共生企業・共生社会の実現に必要な意識改革へとつなげる挑戦を続けている。



三菱商事太陽株式会社



観戦会



体験会・講習会



ボランティア



協賛

企業情報

三菱商事太陽株式会社

【担当部署】総務・管理部 業務チーム

【所属人数】6名

●別府本社

【住所】大分県別府市内蔵1399番1

【電話】0977-67-3214(代表)

●東京事務所

【住所】東京都千代田区丸の内2-2-3

丸の内仲通りビル9階

【電話】03-6212-5215(代表)

【URL】<https://www.mctaiyo.co.jp/>



をぜひ行ってほしい。」

共に汗を流し、楽しむ時間と空間が 社員の意識を変える

同社は、「大分国際車いすマラソン」で、ボランティアとして受付や交通整理などの運営を担っている。その際、三菱商事の若手社員もパラスポーツ支援活動『DREAM AS ONE.』の一環として参加。

また、同社の社員旅行の際にも、障がいのある社員の介助役として三菱商事の若手社員が参加している。同社の社員全員が楽しめるようにとの配慮からスタートした取り組みで、基本的な介助の知識を伝えただけで、実際に一緒に外出し、共に楽しみながら食事やレクリエーションのサポートを行う。



介助の仕方を学ぶ社員の皆さん

障がいのあるなしに関わらず、誰だって遊びたいし、食事やお酒も楽しみたい。体のどこかに不自由があれば、誰かがサポートすればいいだけだと、実感する。障がいのある人たちと時間と空間をできるだけ多く共有することで、社員の意識変革が期待できる。三菱商事独自のボランティア活動で、三菱商事が後援する車いすラグビーの試合後に、激しく汚れた床をゴシゴシと磨いて原状復帰に努めている。地道で根気が必要な作業だが、パラスポーツをする人を増やし、長く続けてもらうためにも不可欠な活動である。

企業の経営層こそ、ボランティアを 通じた意識改革を

同社取締役の車いすアスリート・佐藤隆信氏は、『DREAM AS ONE.』の立ち上げ当初から関わっていて、機会があればイベントに参加したり、競技にまつわる話をしたりし

てきたが、年を追うごとに、東京マラソンのボランティアに積極的に参加したり、パラスポーツ観戦に行く社員が増えていて、明らかに関心が高まっている、と語る。



社員でパラスポーツを観戦

三菱商事グループは障害のある人の雇用を特例子会社任せにせず、本社などでも障がいのある人の雇用を進めており、本人次第で同社でも本社でも働けるチャンスがあるという。

企業の社内制度改革をスピーディに行うためには、経営トップ層の意識改革も急がれる。その点でも、三菱商事グループでは、幹部クラスのボランティア活動の機会を増やすといった取り組みを進めている。



「大分国際車いすマラソン大会」での佐藤選手

“多様な仲間を受け入れて、共に働く”ために



福井代表取締役社長

同社は、三菱商事と、社会福祉法人太陽の家との共同出資会社であり、三菱商事の特例子会社である。太陽の家は、1964年の東京パラリンピック実現に尽力した、故・中村裕博士が創設。その太陽の家と、故・中村博士の理念に共感した三菱商事が手を取り合い、1983年、IT企業として同社を創立。以来、障がいのある人とない人が

共に働く共生企業として新たな道を切り開いてきた。「多様な仲間を受け入れて、共に働き、社会や会社を変えていく。これを実現するためには、従来の企業の採用方針や評価制度、人材育成方針を変革し、労働環境を整えることが不可欠です。そのためには、まず経営層を含む社員の意識改革が必要です。」



社員がボランティアとして参加

「意識改革の手段としてパラスポーツに関わることは有効。パラアスリートたちの、いわばハレとケのギャップは、現場に足を運び、においをかいだり振動を感じたりと五感をフル活用することで初めてわかるもの。まずは現場に足を運んでもらいたい、そして、『ボランティア』